

言語障害のある中学生への 指導・支援の充実に関する研究

言語班

滑川典宏・久保山茂樹・牧野泰美

(2020.2.22／研究所セミナー)

1. 研究体制

○ 国立特別支援教育総合研究所 (敬称略)

滑川 典宏 (研究代表者)

久保山茂樹 (副代表)

牧野 泰美

○ 研究協力者

庄司 美千代 (文部科学省) 小林 倫代 (名誉所員)

小林 宏明 (金沢大学) 川合 紀宗 (広島大学)

○ 研究協力機関

札幌市教育委員会 札幌市立幌北小学校

札幌市立北辰中学校 下関市立日新中学校

平塚市立崇善小学校

全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

2. これまでの研究から

- ・ 小学校のこたばの教室に通っていた生徒の **6 割以上が中学校では「特別な支援」を受けていない。**
- ・ **小学校のこたばの教室**で中学生を正式に受け入れたり、**教育相談やサービス、兼務発令等体制を工夫**したりしている。
- ・ 長時間授業を抜けたり、部活動を休んだり、制服で他の中学校や小学校のこたばの教室に通ったりすることに**抵抗感のある生徒**がいる。
- ・ 「変装してまで通いたい」「隔週なら通いたい」「外に出られるからいい」等、中学校のこたばの教室に**通いたい生徒**もいる。
- ・ 小学校のこたばの教室担当者は、中学生に必要な指導として「自己理解」「仲間づくり」「高校受験に向けた指導」「心理的な支援」等を挙げていた。また、担当者は、中学生の指導に難しさを感じている。
- ・ 定期的に通級するのではなく、**困った時に頼ることができる場所**になってほしいというニーズがある。

3. 研究の目的

**ことばの教室に通う言語障害のある
中学生の実態を明らかにする。
また、言語障害のある中学生が必要と
する指導・支援の内容、体制を充実
させるための方策を考察・整理する。**

4. 研究の方法

(1) 言語障害のある中学生の実態調査

小・中学校のことばの教室担当教員に質問紙調査を行い、言語障害のある中学生や小学6年生の現状、言語障害のある中学生が必要としている指導・支援内容、通しやすい体制等について情報を収集し、現状と課題を明らかにする。

(2) 言語障害のある中学生及び小学校6年生への面接調査

ことばの教室に通う言語障害のある中学生や小学6年生に面接調査を行い、言語障害のある中学生が必要としている指導・支援内容、通しやすい体制について情報収集し、現状と課題を明らかにする。

(3) 言語障害のある中学生の事例研究

研究協力機関（ことばの教室）に通う言語障害のある中学生が必要としている指導・支援内容、通しやすい体制のあり方について事例研究を行う。

(4) 研究協議会による調査結果、事例研究等の分析、検討

5. これまでの研究の経過

2017年度 予備的研究 「言語障害のある中学生への指導に関する研究」

- ・ 全国調査の結果から、言語障害のある中学生の指導・支援の内容、体制等の実態を整理
- ・ 言語障害のある中学生を指導していることばの教室を抽出し、電話調査や訪問調査の実施



2018年度 基幹研究 「言語障害のある中学生への指導・支援の充実にに関する研究」

- ・ 「言語障害のある中学生の実態調査」の実施、課題の整理、分析
- ・ 研究協力機関及び実態調査から抽出した小・中学校のことばの教室への訪問調査
- ・ 研究協議会の実施



2019年度 基幹研究 「言語障害のある中学生への指導・支援の充実にに関する研究」 (今年度)

- ・ 研究協力機関と協働して事例研究を行い、指導・支援の内容、体制のあり方を検討
- ・ 小・中学校のことばの教室に通う言語障害のある中学生や小学校6年生への面接調査
- ・ 研究協議会の実施
- ・ 研究成果報告書のまとめ



言語障害のある中学生への指導・支援の充実

平成30～令和元年度 言語障害のある中学生の事例研究

小学校から中学校へ
切れ目のない指導・支援

(A小学校・B中学校の取組)

言語障害のある中学生に
中学通級ができること

(C中学校の取組)

小学校ことばの教室
による言語障害のある
中学生の指導

(D小学校の取組)

平成30～令和元年度 言語障害のある中学生及び小学校6年生への面接調査

平成30年度 言語障害のある中学生の実態調査

平成29年度予備的な研究
平成28年全国調査等の先行研究等



6. 言語障害のある中学生の実態調査

(1) 調査対象

全国の小・中学校の言語障害特別支援学級及び言語障害通級指導教室
総数＝1,900 回収＝1,090 回収率＝57.7%（小：1,030、中：60）

(2) 手続き

平成30年7月1日現在の実態について質問紙（A3版2項）法で実施
平成30年8月31日を締切として回収

(3) 調査内容（一部抜粋）

「所在地」「学級、教室の設置状況や担任数」「担当者について」
「言語障害のある中学生の実態」（学年、種別、指導形態、回数、方法）
「重視している指導」「学級・教室の経営上の課題」
「担任及び保護者との連携」「言語障害のある中学生が通いやすい条件」

（小学校のみ）

・ 小学校のことばの教室の担当教員が、言語障害のある中学生を指導する良さについて

○ 言語障害のある中学生を受け入れている
小・中学校のことばの教室

		小6	中1	中2	中3
小学校	言語障害特別支援学級	86	2	0	1
	言語障害通級指導教室	1534	53	49	27
中学校	言語障害特別支援学級	-	12	12	8
	言語障害通級指導教室	-	81	82	60
	合 計	1620	148	143	96

○ 中学校ことばの教室担当教員経験年数

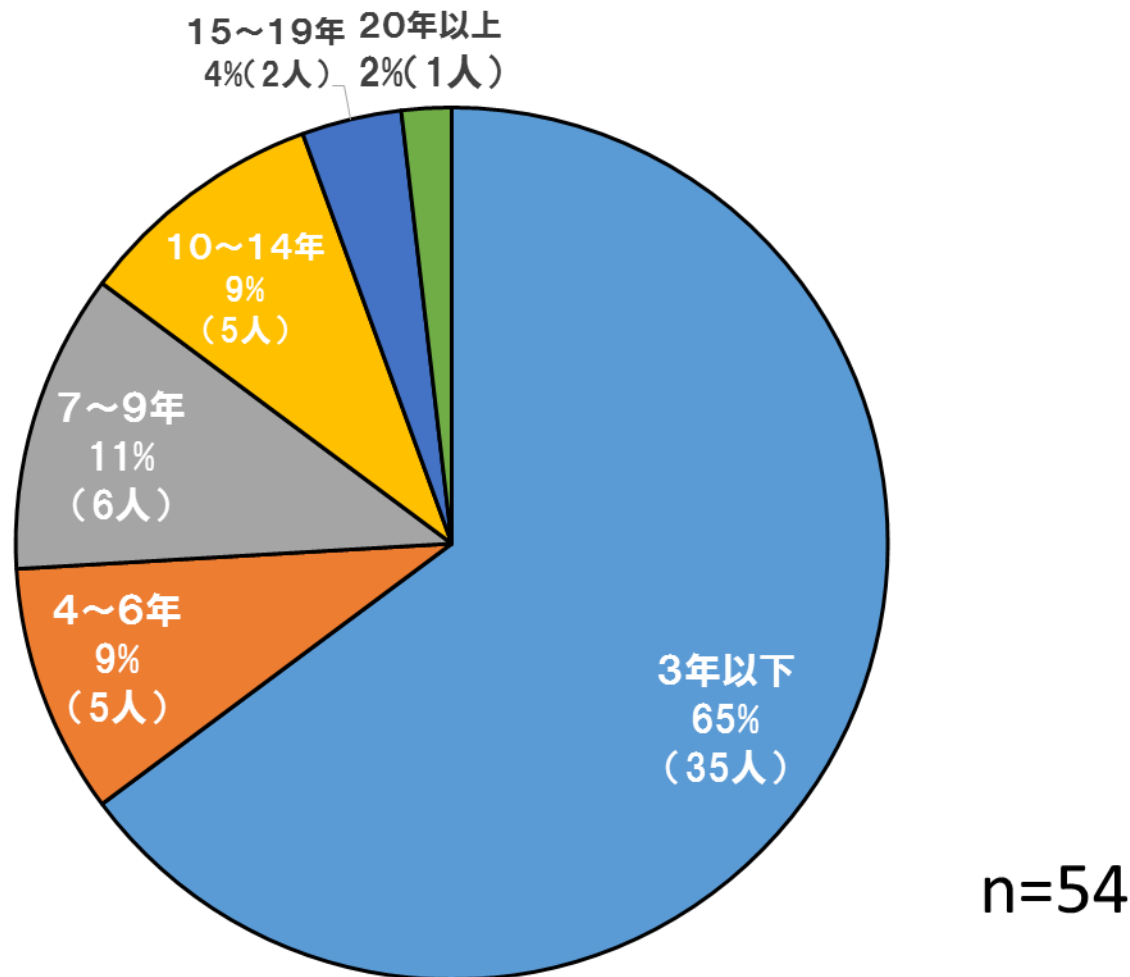


図1 中学校ことばの教室担当教員の難言教育経験

○ 小・中学校のことばの教室に通う 言語障害のある中学生について

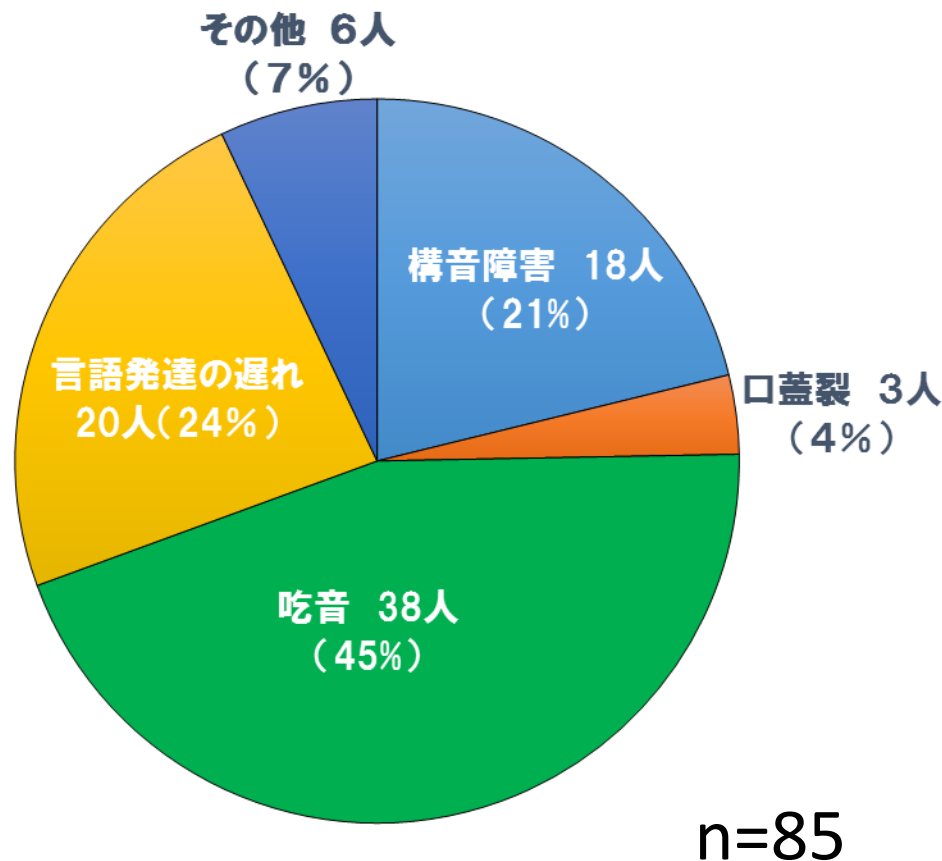


図2. 小学校のことばの教室に通う言語障害のある中学生

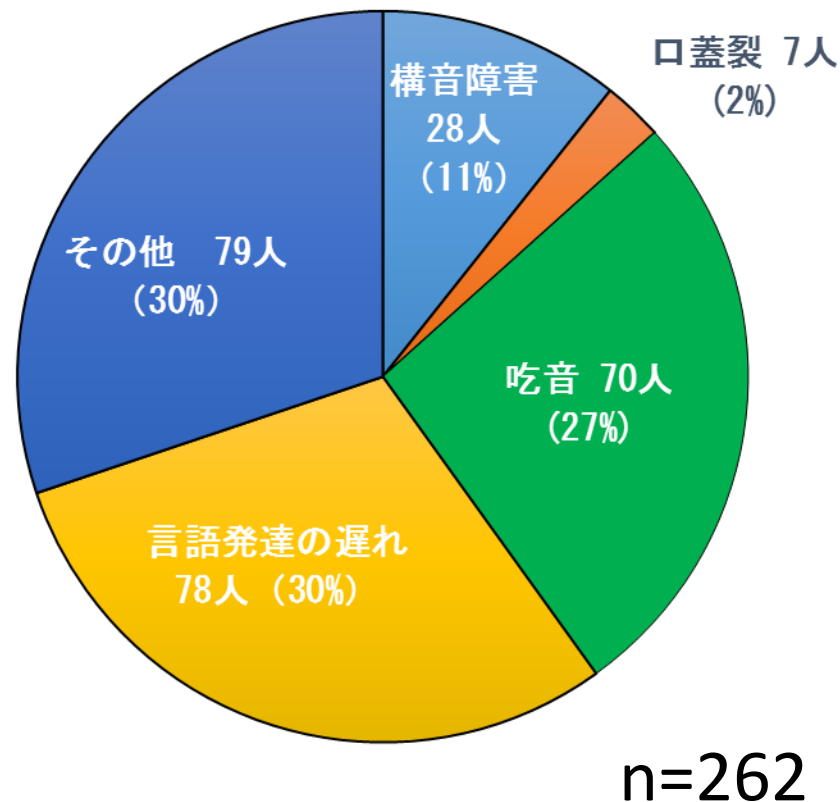


図3. 中学校のことばの教室に通う言語障害のある中学生

○ 小・中学校のことばの教室に通う 言語障害のある中学生の指導回数について

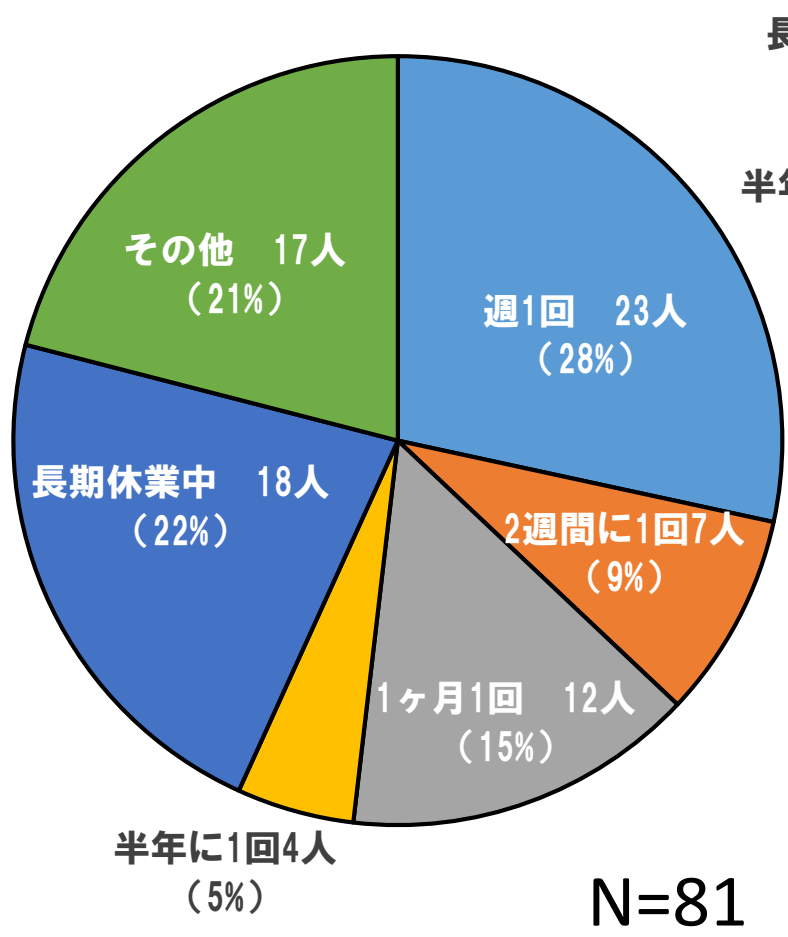


図4. **小学校のことばの教室に通う**言語障害のある中学生

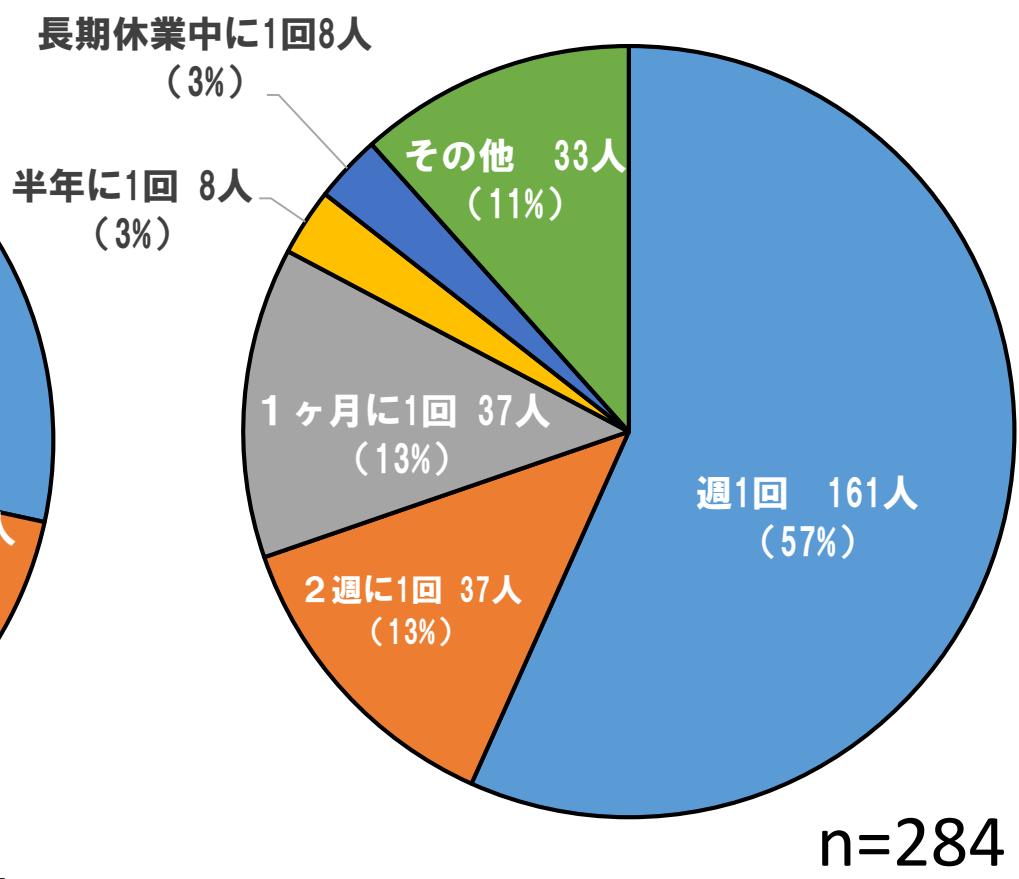


図5. **中学校のことばの教室に通う**言語障害のある中学生

○ 小学校のことばの教室で言語障害のある中学生の指導において重視していること

- ・ 子どもの話をよく聞き気持ちに寄り添うこと。
- ・ 学校生活の様子を気軽に話せる場になるようにしている。
- ・ 言語力の基礎を養う、会話力を身につける。
- ・ 進級、進学に向けて必要な知識・技能を身につける。
- ・ 本人が何を目的にきているのかを見極めて柔軟に指導する。
- ・ 自分のなりたい姿を自分の言葉で語れるようにする。
- ・ 「吃音のある自分」がどのように生活していくかを考える。
- ・ 自己有用感を高める。
- ・ 困ったことがあれば、いつでも相談を受け、学年職員とも連携する。
- ・ グループの中で話す機会を設ける。

(自由記述一部抜粋)

○ 中学校のことばの教室で言語障害のある中学生の指導において重視していること

- ・ **進路**についての相談、アドバイスをを行う。
- ・ 指導回数が少ないため、何でも話してもらえる**人間関係を築く**。
- ・ **障害理解と自尊感情**を育て、なりたい自分の姿を明確にする。
- ・ **安心できる空間**で、穏やかな気持ちで過ごせる雰囲気づくり。
- ・ 自己肯定感を下げないように、できることを確認し、**自信**につなげる。
- ・ **小学校での指導を継続**して、発音の改善を図っている。
- ・ 訓練よりも生徒自身の自己理解や現状の困難を克服する**意欲を引き出す**ことに重点を置く。

(自由記述一部抜粋)

○ どのような条件が整えば、言語障害のある中学生が通いやすいと思いますか

設置場所の工夫

言語指導の専門家

時間帯の工夫

担当教員の人間性

友だちや保護者
担任等の理解

中学校の文化が
わかる教員

思春期を迎えた
中学生の心理面
に配慮した環境
づくり

思春期を迎えた中学生に
寄り添える支援



(自由記述一部抜粋)

7. 言語障害のある中学生への面接調査

(1) 面接調査の目的

言語障害のある中学生が必要としている指導・支援内容及び通いやすいことばの教室の体制などについて面接調査を行い、言語障害のある中学生のニーズを明らかにする。

(2) 調査内容

- ・ どのような理由でことばの教室に通っていますか？
- ・ ことばの教室でどのようなことをしていますか？
- ・ ことばの教室でどんなことをしたいですか？
- ・ ことばの教室に通って良かったと感じることは何ですか？
- ・ ことばの教室に通っていて困ったと感じることはありますか？
- ・ どんなことばの教室だったら通いやすいですか？
- ・ その他（思いや願い、感想など本人の伝えたいこと） 等

(3) 言語障害のある中学生の人数 14名

○ 面接調査の結果ー①

(一部抜粋)

➤ 通っている理由を教えてください

- ・ 苦手な勉強が通級にくるようになったらできるようになったから (8)
- ・ 学校に行くきっかけとして (5)
- ・ 中学校に入学後、悩みが増えたから (4)
- ・ いろいろな人と友達になれるから

➤ 何をしていますか？

- ・ 苦手な教科の学び方を学ぶ (8)
- ・ ことばの教室にくる友達と話す (3)
- ・ 勉強や悩んでいることを話す (2)
- ・ 運動、カードゲームなど楽しいこと

➤ どんなことをしたいですか？

- ・ 今のままで十分です (5)
- ・ わからない学習を教えてください (4)
- ・ 友達とのふれあい (2)
- ・ 「今、悩んでいること」「たわいのない話でも、込み入った話でも」 (2)

○ 面接調査の結果一②

(一部抜粋)

➤ 通ってよかったことはありますか？

- ・ 学校に来るのが楽しくなった (2)
- ・ いろいろなモヤモヤがぶっとぶ
- ・ 自分の居場所ができて、自分をみつけることができた
- ・ 通うようになって、気持ちが楽になった
- ・ 通級指導教室が楽しいからがんばれることもある

➤ 通っていて困ったと感じることはありますか？

- ・ 困ったことはない (5)
- ・ 時間割が突然変わると困る
- ・ クラスの友達にどう思われているだろうか？
- ・ 他の学校に通わないといけない
- ・ 中学1年の頃から通いたかった

➤ どんな教室なら通いやすいですか？

- ・ 十分すぎる、これ以上どこを良くしたらいいのかわからないレベル (4)
- ・ 異性の先生だったらやめていたかも
- ・ 自分の意思が尊重される教室
- ・ もっと友達と話す機会が増えたらすごく良い
- ・ 優しい教室

○ 面接調査から

中学生にとって「ことばの教室」は・・・

- ・友だちと出会える場
- ・たわいのない話も、込み入った話もできる場
- ・苦手な学習などのやり方を相談できる場
- ・自分が少しずつできることを実感できる場
- ・好きなことを楽しめる場
- ・エネルギーを蓄えることができる場

ことばの教室と中学生

- 中学生の多くはことばの教室の活動に満足している
- 自分のことを言語化することができるようになっている
- 自分と向き合うことができる場になっている

8. 地域の特色をいかした取組

- (1) 小学校から中学校への切れ目のない指導・支援
(A小学校・B中学校の取組)**
- (2) 言語障害のある中学生に中学通級ができること
(C中学校の取組)**
- (3) 小学校ことばの教室による言語障害のある中学生の指導
(D小学校の取組)**

○ A 小学校の取組からー①

～小・中学校のことばの教室が隣接する良さ～



○ A 小学校の取組からー②

～小学6年生が中学校のことばの教室に通う理由～

- ・小学校でことばの悩みがある友だちと出会えたから(吃音)
- ・困った時に悩みを聞いてもらえるから(吃音)
- ・2月に中学校の授業や部活を見学してやっていけるか心配になったから(構音)
- ・自分から新しい友達に話しかけられるか不安になったから(構音)
- ・別の小学校の友だちや中学校の担任に吃音の理解が得られるか不安だから(保護者)
- ・本人は気にしていないけれど、12月ぐらいから吃音が目立つようになったから(保護者)
- ・保護者としては、心配がなくなるまでことばの教室に通ってほしい(保護者)

たくさん
話せて楽しい

言いにくい
音があるから

継続していた方
が良い気がする

家族以外の
大人と関わ
る経験は
大切よね

困ることが
あるといけ
ないから



生徒の保護者は中学校のことばの教室
に通うことを希望しているが・・・
本人は「大丈夫」「今は困っていない」
「疲れると思うからいけない」と言っている

○ A 小学校の取組からー③

～言語障害のある小学校 6 年生の指導・支援～

4月	・小学6年生と中学校の生活についての期待や不安などのイメージを共有 (例: 中間・期末テストがある、部活がある、教科担任 等)
5月	・小学校の学級担任と卒業までに児童に身につけてほしい力と学級での姿を共有 ・中学校ことばの教室での支援の妥当性についての意見交換
9月～	・自分のことばについて考えたり、一般的な知識を話したりする。 ・中学校生活への見通しや期待感がもてるような指導を行い、中学校へ向けての期待を高め、不安(例: 自己紹介)の軽減に努める。 ・中学校の学校祭等に参加する児童もいて、中学校のイメージがもちやすくなる。
12月頃	☆中学校ことばの教室での指導を希望する本人、保護者がほぼいない
2月	☆中学校ことばの教室での指導を希望する児童、保護者が増加 ・理由として① 環境が大きく変化することを実感する ② 通級に係る通学時間が小学校と変わらない ③ 通級の継続手続きが負担感が少ない ④ 改めて教育相談を受ける必要性がない ⑤ 担当者間での引継ぎの実施 ⑥ その他(中学校ことばの教室見学 等)
3月	・保護者の了解を得て、中学校ことばの教室担当者と引継ぎ ・中学校ことばの教室の指導が、小学校と連続していることを意識して伝える。

○ B 中学校の取組から

～ことばの遅れがある中学生 2 名の 3 年間の指導・支援～

➤ 生徒たちの様子

- ・小学校のことばの教室に通っていた。
- ・在籍学級では、孤立傾向にあり、教室は、**自分を脅かす怖い場所**
緊張し自分を武装して過ごす場所であった。

➤ 基本的な指導の考え方

- ・言語発達の遅れをコミュニケーションの面から理解する。
- ・話したい、分かり合いたい相手がいて、主体的に会話することで、言語活動を活性化し、言語発達が促される。



➤ 基本的な指導方針

- ・安心できることばの教室で友達と関係を作る。
- ・一緒に活動をしながら、自由なことばでやり取りを活性化する。



○ B 中学校の取組から

➤ 共同作業で「交換マンガ」 (図6)

- 好きなアニメやマンガなどの共通点をいかしたグループ指導
- 徐々に相手の思いへの共感が育つ
- 家庭でも表情が柔らかくなる
- 自分の面白さよりも相手の気持ちを考えるようになる



図6 交換マンガ

➤ 「ことばとこころ」を育むために

- 小学校のことばの教室で「ありのままの自分を見せても大丈夫」という心の育ちをベースにする
- ことばの教室での同じ悩みをもつ仲間との出会い
- 信頼できる仲間ができた体験

○ C 中学校の取組からー①

～言語障害のある中学生に中学通級ができること～

(1) C 中学校ことばの教室の現状

- ・小学校6年生までに言語に関する指導を終えるケースが多い
- ・言語障害を主訴としていないが、言語に課題を抱える生徒が多い

(2) 思春期の通級指導教室に通う生徒たち

- ・学級の友達に「気後れ」を感じながら生活をしている
- ・「通級のことを楽しい」という言葉を聞くと担当者として嬉しくなる反面、生徒の暮らしにくさの大きさを感じる

(3) 言語障害のある中学生が望むもの

- ・自分のことをわかってくれる友達がほしい
- ・学校の先生に自分のことをわかってもらいたい
- ・保護者に自分のことを受け止めてもらいたい
- ・自分のことを好きになりたい



○ C中学校の事例からー②

(4) 言語障害のある中学生に中学通級ができること

言語障害のある中学生にとって「言語障害がなくなること」より「安心して話すことができる環境」や「自分自身を好きになるための何か」や「もっと楽に生きる方法を教えてくれる誰か」を得ることが重要。
(研究成果報告書C中学校の事例より引用)



- ① 安心して話すことができる「環境の整備士」としての役割
- ② 自分を好きになるために必要な「材料提供者」としての役割
- ③ もっと楽に生きる方法を一緒に考える「仲間」としての役割
- ④ その他～C校の通級指導教室担当者としての9つの心構え～



「魅力ある中学校ことばの教室」にするために
→ **「仲間」 「安心できる環境」 「言語障害教育の専門性」**

○ D 小学校の取組から

～小学校で長期休業中に言語障害のある中学生の小集団指導～

○指導・支援について

- ・ 自分を出せるようにしていく。
- ・ 気楽なおしゃべりの中で、話すことの楽しさを味わう経験を積んでいく。
- ・ のびのびとやりとりできるようにしていく。
- ・ ゆったりとしたかかわりの中で、困り感に寄り添っていく。



〈成果〉

- ・ どんなに部活動等で忙しくても、グループ指導の仲間に出会えるから通級するという理由で通級する。
- ・ 保護者同士が情報交換したり、悩みを相談したりできる。

〈課題〉

- ・ 小学生の時に曜日時間が合わずにグループ指導が行えなかったケースは、中学生からグループ指導に入ることが難しい。
- ・ 個別指導の中学生については、グループ指導の中学生より通級意欲に欠ける場合もある。



言語障害のある中学生

言語障害のニーズ

- ・構音障害のある私
- ・吃音のある私
- ・ことばの遅れがある私

中学生段階のニーズ

- ・学習面の悩み
- ・人間関係の悩み
- ・悩みを相談したい気持ち
- ・友達存在
- ・安心できる人、場所 等

言語障害教育(ことばの教室)